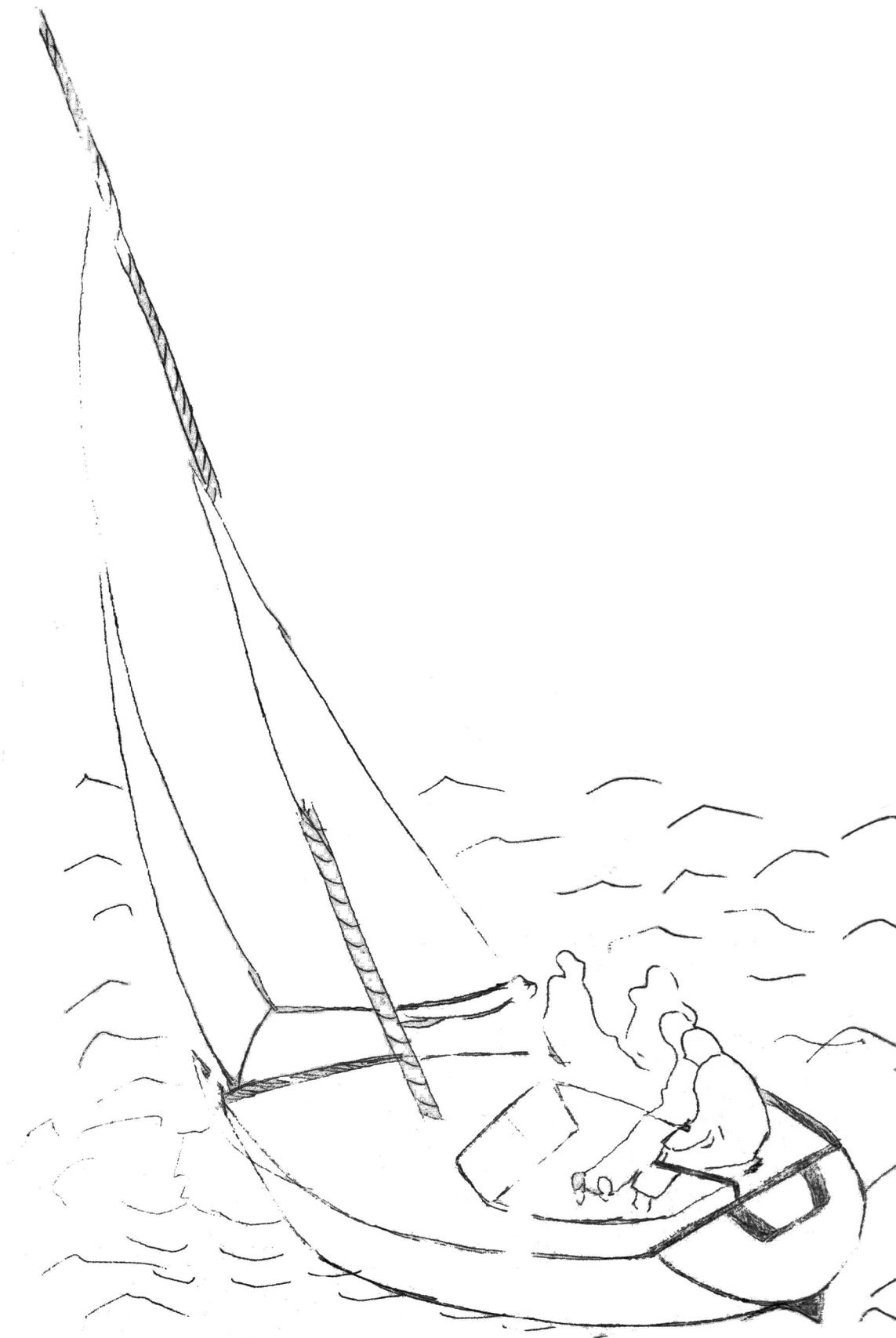


NO. 7



偶感

部長 大竹勝

先般八芳園で、ある大学の
優勝祝賀会参加した。祝賀
会をすするくらりたから、常勝
チームでなかつたことは、確実
である。長年の苦闘が報い
られたいとは、武辞で明らか
にたつた。同席の古老から、この
大学の先輩で、ある貿易会
社の社長が、その大学だけで
何人、日本の選手界を今日

あらしめを正めに加力され
孫娘の左良直美さんが、
この祝賀会にかけつけると聞
かされた。

直美は、テレビで見たいほう
が、良かった。

山が、選手部のO、Bの結束
は、年会において、敬慕へ入出
席率を維持しているとのこ
とだ。初代のO、Bが社長
になる頃までは、未だかな
りの歳月を要するであろう

が、0、Bと現役との呼称が
合つて、向者か、あつ朝に乗
る時ニヤ、われわれのテグ、ハ
か実績を世に問ふ時、氏とたう。
われわれは、あせるニとけなハ、
着々と進むニと也。

そのよりにわれしは、考え也。

幹部としての二年

第三期主将 吉田昭夫

幹部を引退して半年が過ぎました。今、主将としての二年間を振り返って見ると短かったように感じますが、去年の夏、主将の任期が終り、現役を引退した時は、非常に長い年間であったと感じました。三年の夏に主将となつてからの二年間、私は非常に多くのことを経験し、いろいろな事を学びました。もともと私は、二つのことを考え抜くということが不得意で

あり、二つの事を一日中考えた
り悩んだりするということ
は全くといっていい程なかつた
のです。主将となつて最初の頃
は、やとクラブ内において最上
級生になつたということや、これ
少しは、今までは違ひ、自分
の意見も出せるという事のろ
が、主将としての責任の重圧
などよりも強く感じられ、有項
天であつたような気がします。
しかしいヶ月が過ぎ、三月が過ぎて行
くうちに、クラブの事だけで頭が
いっぱいになつて

しまいました。合宿中はかえって他の事を考えられるのですが合宿以外の時は夜、目がさめるとその事ばかり考えてしまい、眠れなくなってしまうのでした。そして、合宿中、ヨットに乗っている時、ヨットの事だけを考えると、時間が一番バがやすまるような気がしました。あと何ヶ月で幹部を交代することが出る、後何ヶ月だと考えた時期もありました。そして、年が明け、学年末試験が終り、二月中旬からレースを目ざす合宿に入ると

にならると、やっと少し気持ちの整理も出来、レースの事だけを考えたから練習をすまることが出来るようになりました。そして、5月のレース、やはりレースというものは、クラブ活動に於て、最もやり甲斐のある事であり、そしてやはり、最後のレースは私にとって、最も大きな思い出となりました。この年間は考えて見ても、また4年間は考えて見ても、私がクラブから得た物はあまりに多く、私がクラブのために行ったことがあまりに少

ないような気がするのが残念です。最後、安住さん、監督、先輩たちには、言葉には言え尽くせない程、いろいろとお世話になりました。有り難う御座居ました。

また、後輩満君もいろいろ有り難う。
社会人となりましても、ヨット部のOBとして出来るだけのことはやりたいと思います。

第十三期 主将

頼る本哲也

昨年の夏合宿に主将に任命され、日増しにその責任の重さを感じていきます。

主将に任命されて束の間、待っていたのは新人選でした。

とにかく夢中でいた。昨年は何か腰の落さつかない4ヶ月であらうと思っております。

今年の最大目標は、何とてもしーすで「勝つ」ことに尽きると思えます。「勝つ」ことがどれほど大切なことか分かりません。そのためには、これからの毎合宿を常に充実したものにしていかなければなりません。

そして部員ひとりひとりが主体性をもって活動していかなければなりません。何のスポーツでもそうでありますが、主体性・積極性がなければいけません。ハルマツプには何の意味もありません。情性は絶対にタブーです。またこの四月には部員獲得に全力を出さなければいけません。部員不足は、クラブ活動において「層の薄さ」として表われてきます。部員相互がライバル意識、レースメンターへの執念を持たなければいけません。「あまざ」として出てくるもの下す。

よして、私はこの誌面である先
 輩が以前におかきになつておられ
 ましたか、僕は体育会に所属
 してゐるんだ、僕はヨット部なん
 だ、という誇りをもつてほしい
 のです。よければ、変な意味での
 優越感などというものでは決
 つてありません。ただでさえ
 四年間を無意味に過ごす学
 生が多い現在、ヨット部で活動し
 ていることは決して無益ではあ
 りません。十ヵ月に四年間の蓄
 積に値するものであります。
 今年も部長・監督・コーチ
 よしてのほの皆様がたからご

— スタート直後 —

風：北 5~7m

海：晴れ

潮：引き潮



指導をいただきまして、
 責任・和・忍耐・誠意の四つ
 のことばのもとに更にヨット部
 発展のため頑張りたいと
 思っております。

ヨット部にて

四年 北村典聖

ヨット部に入ろう、もう、五年
大学生生活のほとんど金でク
ラブ活動でした。卒業近く
して、まだまだ大学に、残り
たい気持ちでいっぱい、青春を
燃やす、時期にヨットに乗
って、理論的には納得でき
なかつたけれど、なにかにつけ
プラスになっています。

合宿所での酒のうまさ、
歌、白装、同輩、先輩、後輩
頭の中で楽しい思い出が
よみがえります。

最後の一年、自分はヨット
と離れて大学生生活を送っ

たわけですが、ヨットに乗り
たくて、乗りたくてたまら
なかつた。自分の心の中で支配
されている、ヨットの部分が
これほど多いのかと思つうほど
でした。

自分の五年間の青春より
大きくするために、これが
もっとも、と自分自身にき
びしくしてゆきたいと思つて
いる。

現在、大学の体育会の人数
が減っている中で、クラブ活動
をより多く奨励させてゆくのは
現役諸君の気持ち一つであ
る。

自分をみかく、よい試練を
作り出す事により大きい人
間になれると思えます。
できないといけけるだけ
では、ダメだ、どんな事を
してもやってやるという気
持ちは忘れないでほしい。
若者は、こんな気持ちか
欠けていると、言われな
い。胸をはらはらしてゆ
くために、がんばってほ
しい。
青春は、理論ではない
実践である、理論を言
う前に行動する事が
大切なのである。

とくにヨットレースは、チーム
プレーが必要であるのであ
るから、理論ばかりごねて
個人プレーのない様に心
掛けてほしいのです。
マージャンも必要、コンパも
必要、青春を作るのは自
分自身である。
まず立ちなさい、
行動しなさい
男なら！！

テヨットセトコトノクコト

宮田 晃

今の部員は、自分で考えて何かをやってみようとする態度があまり見られないような気がする。もちろん、みんなはそれなりの事をやっではいるのだろうが、私達が言った事は、決してそれだけにどまらる物ではないはずだ。

それはほんの基本的な事であって、それをつきつめて行くとそれそれの乗手によつて、異なる結果として現われるだろう。

艇のすべりをほんのわずかだけでも良くするため、どのようなすればいいのか、という事を、もし本気で考え始めたところ、その人はヨットの面白さが理解できなくなるようになるだろう。一、二年生というものは、ヨットのつらさーかわからぬ、もし解たにーでも、それはヨット面白さではなく、海のそれであろう。スキッパーになって始め

て解るのではないだろうか。

二、二年でやめて行った人達は

可愛いそうなる人達であらう。

しかし、それ以上に可愛いそ

うなのは、スキーパーをやりなが

ら、何も考えずに束縛していた

ほんとうの楽しさを知らうと

しなかった人達ではないだろ

うか。

ヨドは、やはり金持ちのスポ

ーツである。娯楽、道楽と言

た方が適當かも知れない。

それを、貧乏人の学生がやる

からこそスポーツとして成り立つのではないだろうか。

もし、我々が何か金をか

けるのであれば、あの動きに

くいカッパにはなく、より良

いセールにかけろべきであらう。

私たちが求めているのは、

漏水ずに海から上がってくるのではなく、一番先にか

てくる事なのだから。

ところで君達は、あのシャイ

アーツでさえやっている。キャ

ニブ削の自主トレをやて

いるのだろうか。長い休みの後の合宿は、とてもきびしく感じられるもので、よもともと、安住さんと対等に麻雀を打っただけの力をやいなうのも自主トレのうちかな。ア、ちなみに私は安住さんに勝った試しがない。あーからず。

今回は、やっぱり、ピニッとせまって見ました。周回で見守っている人間は、やはり、レースに出た人間に勝つてもさうたい、いい戦績を聞きたいと思ってるのです。

それと、やはりどこかで自故があった時に（あつてはないのだが）うちの学校は無事だったという事もです。さう当たって5月のレースに向けて、きびしい気持ちで望んで下さい。

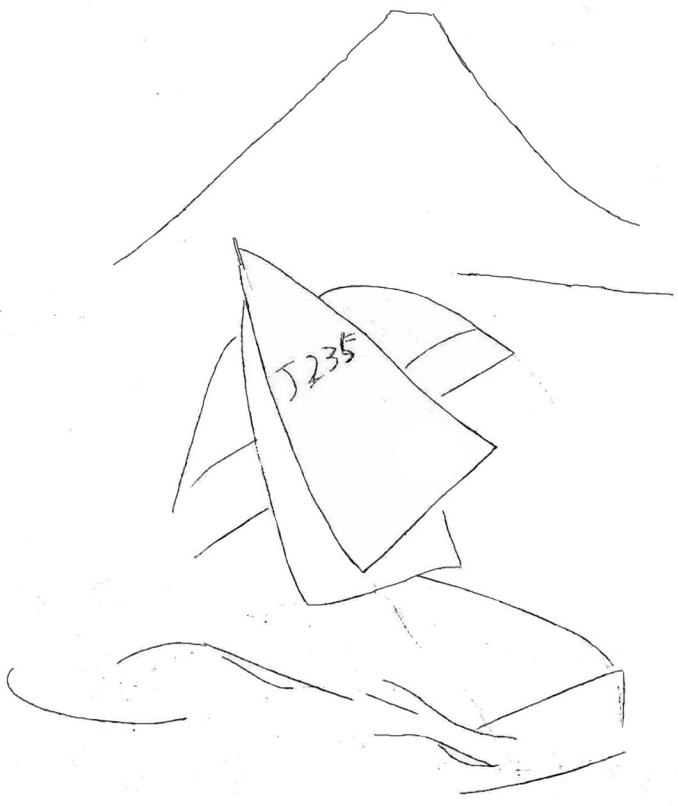
海

経営 4年 吉田昭夫

大学生活の4年間、ぼくは海と
共に暮らした。合宿がなく、学校
に通う毎日でも、冬のオフシー
ズンでも、ぼくの心の中には、常に
海があった。ぼくは、学校を卒業
することにより、大学に入学する
前と同じように海から遠く離
れた生活にもとる。しかし今、ぼく
には、数えきれないほどの海との思
い出がある。ぼくらには、海にシク
レーションに來ていたのではない。
ぼくらには、四季の海と共に生活
をしていくのだ。ぼくらには、夏の

太陽がまぶしくて、しかたがない時も
台風の時も、秋の冷たい雨が降りレ
する時、2月のあの寒い日にも、春一番
が吹き荒れ多日々も、ぼくらには、海と、
一緒にいた。ぼくの体の中どこかに、
あの潮風の中で生活した毎日のあ
の潮のにおりが、どこかに残っている
ような気がする。こゝろが、ぼくの大学
四年間でえた、最も大切な財産だ。
ぼくは、一生あの海をあの荒崎の海
をぼくの海だと、言い切れる。
合宿所のベランダから見た、夏の
日の、あの真青な海、そして、どこま
でも澄んでいる空、そして、けるか
沖に、ぼつんと立っている灯台、そ

してまたある時は、夜急、海面
 には、白波がいつぱい立ち、一人で
 荒れた海と立ちかっている灯台、
 同じと二つから、同じ景色を
 見ているのに、さまたまな姿
 を送け、ほくは、ほくに
 た。ほくは、いろいろの次女の送す
 べこが好まじ。八月の終わりの二つ
 の毎の夕焼けの美しき、二日の合
 宿の時、荒れた相がみ湾を越えて見
 える雪化粧した富士山、自然と
 いうものは、なんとすばらしいの
 だろう。先輩方も、このようにな
 思ひ出の数々を持たれて卒業
 したのだろう。ほくにちのクウ
 プにソレ者、みは、年の差は



あっても、心の中にみは同じ海をも
 つているの。

荒崎の海よ、ほくは 一生
 君を忘れない。

風の浴び方について

經濟三年 岡司郎

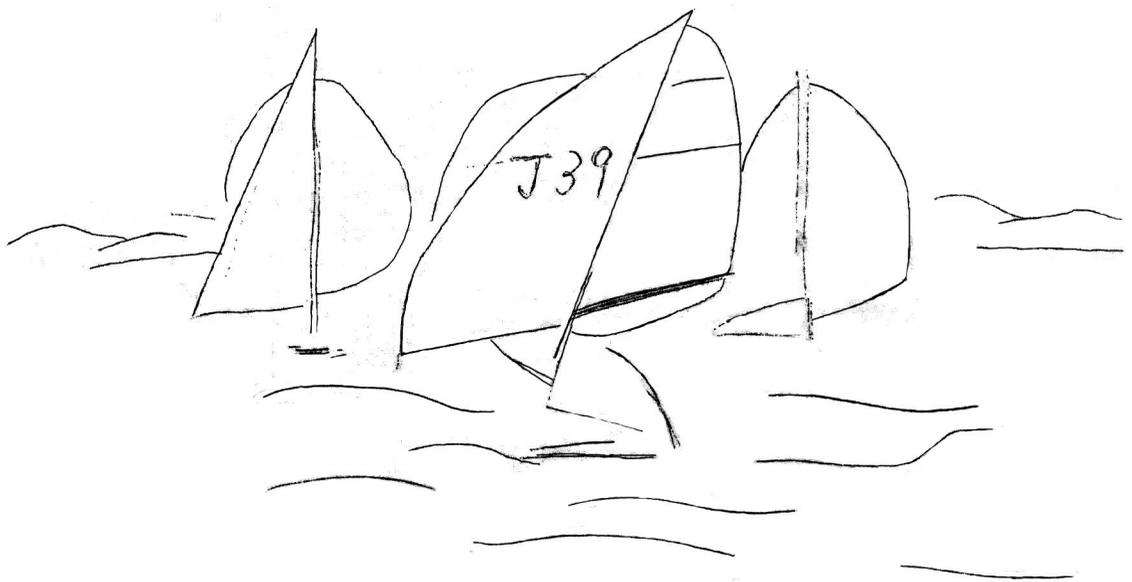
月というものは地上の生物にとつてはとも不思議なものである。風のほうでは、ただ高気圧と低気圧の關係で高い方から低い方へと流れているのにすぎないのであるか。それが私たち人間にとつては、とてもとても奇妙なものにみえるし、また悩みの種ともなる。このことは、いつも街の中に暮らしている人にはさほど思われないうが、一度風にかかわる事になると、みどく気にかかってくるものです。さて、こんな風に氣を配っている風を浴びるにしてもいろいろ遠慮するものです。適当に心配よし風が吹く時は風の中を心軽くして、と体の重さが消えてきて、とてもクリアな音楽を聞いているような気分になるようです。そして、こんな時はうつむいて歩くよりは、なるべく顔を天に向けているのがいいのです。そして時々腕を天に向けて宇宙からのエネルギーを顔や指や手のひらで受け止めようとすると

それが心と身体にとつてもよいのです。誰でも「お祈り」をする時は天を見上げるとしよう。それは太陽を神とする意識もあるでしょうが、たぶんこれはもともと実用的な意味があつたのではなかつたら想像するのですが、私たちの生活では背をまゐめて下にうつむく姿勢が多い。その時身体は胃が圧迫されて背中や腰が痛くなり、胸に古血がたまる。これではクリアな精神は保てません。みなさん空を見上げる習慣をしましょう。風が吹いているのなりなあらうとうしましよ。

「あとかき」

冬の最中である一月の末に、ヨットについて何が書こうとするのは、想像力の乏しい私にとつては、とても難しいことであり、いつも悩まされていることでもあります。同様に海とか風のこと結局は自然などについて書くはめになつてしまつたようです。できることなら、去年のレースでの興奮、あるいは練習中の心の高まりなど

をぼろぼろと描写できればいいのになん
どとんでもない思っているのではありませんが
そこは、私の性格上の欠点、忘れっぽ
さゆえ、いたしかたないことです。毎年
ことし、ことばを思っても、いざ書こうと
すると、いざ書こうとすると、すっかり、
脳裏から流れ去ってしまっているのです。
そしてこれが四年間くり返されて、
なつかしい思い出となって残ってゆく
ではないかと、思っているのですが。



思うがままに・パートⅢ

三年頼る本指哉

今年も、試験がはじまろうとして
している。毎度思うことであ
るが、いつも講議に出ていた
乗なシリーズなのになあと後
悔することもある。

大学生生活三年間送ってきた
わけであるが、一口に三年と
言っても様々なことが脳裏に
やまつりてまた、消えかかっ
ている。ただただつりて行く一
年、先輩一年生の二年、そして
混迷?の三年が、フィニッシュしよ

うとしてくる。いや、今、試験が
はじまろうとしてくるからスタ
ートかもしれない。

最近海を見て、感じ方が違っ
てきた。以前は、言わゆる海で
ある。そして、次第に海が、
私の心を占めていく。今では、
生きていく海である。それに、
私は、ある種の満足感を覚え
える。小エリ時から海は身近に
あった。親に連れられて行った海
泳の海、舟に揺られて行った海
そして、海とともに暮らした海
海という二とは、から色々なこと

が、うかんでくる。舟・水平線・
瀬・島……。海は、我々人間
のふるさとなのかもしれない。水
平線に、夕陽が沈む時のあの
素晴らしさ。私は、傍らの山石に腰
をおろしてじっと見つめる。
何とも言えぬ気持ちになり現
実を忘れる。メルへの世界へ入り
こんでいく。そして、水平線の向
こうに住んでいる人たちと話し
をしてきた。東の間のメルへの
世界だった。私は、たほこもくや
らせながら、姿を眺めるのが好
まじ。ひとりになつて今日一日
を振り返つてやる。なぜ、あの
時、あんなにしたのだろうか、

ほせもう少し頑張ればかつたの
か、あれはあれでよかったのか
と……。許す自己満足、自己
嫌悪の世界かもしれないけれど
私にとっては、大事はひとひと
ある。海に抱かれて男ならば……と
歌詞の一節を思い出す。

今回、「思うがまま」シリーズの
パートⅢをかくことができて
きて、ささやかな喜びを感じ
てくる。ブクボーン！ヨット都

ヨット部に入って思うこと

三年 渡辺 幸徳

3年からヨット部に入った僕は、いろいろな戸惑いを感じました。先輩の言うことが聞けるのだろうか、後輩がついてくるだろうか、実際クラブ活動をあまり経験していない自分にはこの不安が重くのしかかってくるのでした。生れてこの方、今、自分が海の上でヨットに乗っているなどということは、男性と女性の違いが始めて解った時のような驚きと感動をかくさずにはいられませんでした。始めてヨットを持ち上げた時の重さ、海水に

下腹部までつかった時の冷たさ、気持ちの悪さ、眠たい目をこすりながら艀をさする時のめんどうくささ、ヨットに乗っている時より海に入っている時が多かった日には、もうヨットなんか乗るまいと固く決心したものでした。荒崎のトイレの臭さ、葉山のトイレの冷たさ、どう考えても乗れない思いよりむしろつらく苦しい思いのほうが多いのに、今、試験中に頭の中を駆けめぐり、かきだてるのは、早くヨットに乗りたいという欲求しか浮んでこないのです。これほどまでに自分を引きつけて

離さなリヨットから離れていタ人たちは、
悲しい人間です。

現在部員の名ニれからどうなる
のデラウ。

付録

海に來て思フこと。

「海は、いいな、あ、広くて」

「海も、いいね、え、広くて」

「僕は海が好きなんだ」

「僕は、海も好きなんだ」

「僕は、死ぬまで海をばなエソい」

「僕は、死ぬまで君をばなエソい」

「一九七九年をふり返つておて」

東京経済大学 工部 経営学部

経営学科 専攻…経営労務論

ほか不少人賃金管理 3年

(ヨット部)

竹内ゼミナール

ソフトボール愛好会

7451324

木林 幸一

海には、心がある。

荒れ狂つてゐる時、おれは、自分の

怒りをぶつけおてをり。

静かだ、もう春の時、おれの心にそ

の青さがしめぬはり、おれの心には

すらおを身えてくれる。

そして、どいまでも、続く水干

線、潮のわたり、白の砂浜、

かもめの鳴え声、

海は、心のふるさとである。

〔海〕第3章より

木林 幸一 著

青春書房

ヨット、それは、戦ソである。

若しく、おれを舞しくもある。

男として、生まれておれをばらば、

その戦いに勝たぬは、むらぬ。

そして、そこに、青春があり、

人生がある。

「君は、青春は、何をかけるのか？」
のりたま、のりたま……完

（海）おの草、青春まじ

海、その愛 パートエ

三年 岡野雄一郎

ヨット部に入って早一年足ら
ずにはううといてい

その月日のたつ早さに驚
く昨今

今ふと入部までの経過
をたどって見ると、何ん
も明快で

尚御存知だとは思いますが
単純な僕は、あの有名な
な中年男に感化され、自然
とヨットに乗りたいたと思
うようになり、その意志が

瀬戸本君に伝わり、入部
に至、たので、今考えると
タイミンクが良かった。

通例では、3年から入部
するなんて論外で、そうい
う意味から、瀬戸本君、そ
の他には、ほんとは感謝す
る次第です。

また、自分の22年間の過
去を振り返ると、その半分
はスポーツから離れたこと
がなかった。

やはり、自分は、スポーツ

マニどうりの、連帯感が好きなんだなと思ひ。それも一つの原因だと思ひます。ところで、入部以来、自分はいろんな事を考え、思つて来た。

まず始め、そ水まで送つ、来た。大学生活の空白を後悔し、同時に早く彼等に追いつきたいと思つた。

そのためにいろんな本を読みあつて来たが、やはりスポーツとは体で覚えるもの、な

かなか身に着かないものです。

その間いろんな事はありましたが、そうこつて今日にまでつきます。

今の自分の当面の目標は目前にせまる。春までインカレで、なんとか(大きく出て)シニグルノに入る事です。そのためには春合宿の日々を最も充実したものにしなければと思つています。やらなければならぬ課題がいくらでもあつます。

その一つ一つを、解決したいと思
うのが……

ところで、クラブに入ると良か
たと思っるのは、直回卒業され
る吉岡さんを始め、いろいろな
諸先輩方に知り会えた事
もあります。

他に思うことは、多々あります
が、今回は来年のためにこれ
位にしとあきたい思います。

「感激」

軽常二年、清水千佐子
今年、一年も、やっと終ろうとし
ている。

何とも、悩み多き、そして、変化
にとんだ年であつたことだろう。
自分の気持ちも、すばおに通
じた一年でもあつた。

今は数々の思い出が、脳裏に
よみがえつてくる。

あの海の美しさと、出航してこ
くヨットの姿に感激した。

秋のレース！

登んじ青空——と。

数十ものヨットが、色とりどりに
染まり、一点に向かつて、

フバルトブルの海面を、力強
く進んで行く。あの緊張張
りを安——。

陸のよからしつと見つめてその
ことを思い出す。

そして、一つの事を深く追及し、
決意を固くしつている男の人をも
うらやましくも感じた。

そに、スポーツのもつすばら
しさが、あるのではなからうか
生をこのことにとって、人間に

とって、どんな事にも、美しいと
感じ、すばらしいと感じ、何かに
感動、感激すること、必要な
事だと思ふ。

そして、スポーツした後、あのす
かすかしと、というものも、必要に
と思ふ。

ヨットは、スポーツではあつても、球
技などとは、一種を異にするが、そ
の本質は、けつして、違ふものでは
ないと思ふ。

今や、私もスポーツをし、これ
感じていることは、ない。

中学、高校時代、バスケットをし
たあの頃の、若しをが、今となつ
ては、なつかしく思ひ出される。

もう、あの頃にもどることは、で
きないのかと、人ヤしくも思ふ。
今は、ヨット部の、マネージャー
として、先輩はじめ、皆と、同
しく、ヨットを愛し、海を愛し、
皆と同じく、海の上では、苦しま
ないと、言ふまでも、ヨットがす
ばらしいと、感激を、陸の上から
感じたいと思ふ。

「ヨット部一年」

経堂 一年 田久保篤

時のエフのは、早いもので、私が、東経大に入学し、このヨット部に入ってから、一年が過ぎようとしていきます。

今、風見の原稿が、おそいとおしられて、あわてて、ペンをとりました。一年生として、誠に申し寂しいと思えます。ユットの外は、夜は北風が吹いて来ます。毎朝、申しますように、私は、

当、本学に入った当時は、全く、体育会のクラブに入ろうとは、夢にも思っておりませんでした。

フイロヤエのフマリ、男、女の心アに、さそわれ、根が純情な私は、入学式の日に、あることないこと、金で、向くがままに信甲して、「ボツ」と入ってしまった。

そうして、この一年、私にとっての初体験いろいろありますが、あります。

ヨットの走る、不思議さにおどろき、完全な合宿生活、雨の日の海…… etc.

合宿生活の楽しさ、又、苦しさ？

いろいろと体験しました。

はじめてクルーとしていろいろ作

業した時の気持ち、なんとも

たいへんなものだと思います。

おもしろ、デニターはニびを

した時などは、なんとも、

「やめた」と思っているのがあ

りました。その後の合宿

での、だんらん、たいへん、楽し

いと思うものでした。

このように、二つをへて、「大人

に近づいていくんだなあ」と

実感する。今日この日は、

体育会独特の、二つ、ふんわり

私は、好きです。

すかしのことがありました。

つらい時があった。「楽しさ」が

あるのだと思います。

私が、クラブに入ってから、何人

かの人だけが、クラブから、すが

たを消しました。

その人たちは、私に、どう

いうこともありません。

私が、この先、どうやっていくか

を、これも、わからないうちに

だからです。しかし、私は、

私として、せいーっほい、

やるだけ、やるつもりで

ソマのです。

順風の時のトウゼースでの

マリニグの恍惚

夏の日の夕月の後

私の青春の一人、ジンの大ま

えかかれて、山すゝることは、

たいていでしょう。

私も、まっとうの春、桜が咲

く壇には、一人のペニシ師と

なつて、新人を勧誘してい

ることを思います。

はじめて「風見」を書きの

で、なにも書いてよいか

わからず、支離滅裂の文
になりまして、二の辺で、
へニをおまます。

今後とも、たにとぞ、よろこ
く、おぬが、甲し上げます。

きっかけ

経済一年 島倉徹

入部して四ヶ月、入部のきっかけも、バイト先での部員との出合といふのだから何を書いていいのかわからず、正直言うところ、この四ヶ月、ただ先輩の後をついて行って部の活動に参加するといった他力本願的な活動しかやってなく間違っても自主的とは言えなかつたと思います。

バイトで知り合うまではヨットなんて、何かのポスターで見るぐらいで、それも、大洋に浮かぶ大きなヤツくらいしか知らなかつただけに、二人乗りのヨットなんかなんか、と想像しがた、面もありました。しかし、合宿に入り、走るのを見て、なかなかスピードは出るし、スリムもあり、さうなので、ちょっと驚かされました。

初めて合宿に参加した時、道びのつもりで、一言につられて、何気なく、つもりでついて見たら、朝の早いこと、早いこと、朝が最も苦手として、自分にとては、たぶん、きつかったと憶えています。まあ、こんなことになったのも、自分の愛来不断からきたもの、と今では、絶えざる言。二応やれるところまで、と自分に言い聞かせています。何せ、四ヶ月です、ので、これぐらいしか書けません。おわり。

合宿アウカルト。 その2

コンパ風景

最近はおか山雄三、一色に染まり
コンパはもちろし、常に、皆は、酒歌を
唄っています。

又、ひとりひとり、芸をそれぞれ研究し
最新のものを取り入れ、ハリキッテあり
ます。

酒の量も、少人数ながら、五ノト部の
伝統を守りつつ、研んでおる次第です。
その度を越して、二日酔い、フクフクして
いる場合も、タセタセ〜？

それにも、めげず、皆、大の酒好き。
コンパ好きなので。

その七ヶ台を受けているのか、下級生とも
いえるのでは〜？！

今後の健康を期待しているのです。

しんた

昭和51年度 活動報告

1月 (January)

11 ~ 25 大相撲アルバイト

2月 (February)

11 ~ 13 合宿 [470. 冷たい海に出航]

14 追コン

23 ~ 28 強化合宿

3月 (March)

4 ~ 10 インカレ強化合宿

10 葉山廻航

14 ~ 22 インカレ強化合宿

25 卒業式

25 ~ 31 インカレ強化合宿

4月 (April)

2 ~ 9 新入生勧誘

10 ~ 19 インカレ強化合宿

23 ~ 28 "

30 ~ 5/10 インカレ合宿

5月 (May)

~ 10 个一カ所合宿 荒崎組物
9 ~ 23 大相撲心外
28 ~ 6/1 合宿

6月 (June)

18 ~ 20 合宿
25 ~ 27 "
29 ~ 7/12 高島屋 強制心外

7月 (July)

18 ~ 22 合宿

8月 (August)

夏休み

9月 (September)

2 ~ 10 夏合宿

5 O.B戦 (引退合宿に終わる。)

15 ~ 19 合宿

22 ~ 26 合宿

12 ~ 26 大相撲心外

10日 (October)

1~3 仁カレ 強化合宿

3 葉山廻船

8~11 仁カレ 強化合宿

13~24 仁カレ 合宿

29~1/2 合宿

11日 (November)

1 荒崎廻船

12~14 合宿

19~23 合宿

26~28 合宿

12月 (December)

4~26 強制バイト

18 総会

1月 (January)

8~22 大相撲バイト

2月 (February)

8 風見完成

12 追い出しコンパ

13~15 合宿

部員紹介

合宿所での横顔

・四年生・コーナー

北村 豊聖 (齊化海道)

陸にあかると、「マーシヤンすべえ」を連発。

酒の席では、後輩にとってこの存在！ 「あいヒノ！」

宮田 晃 (菅 鹿見島)

クールなニ枚目？

夏、お風呂の帰りには裸で、かえるのが、お好き。「いーじゃねえかよあ」

吉田 昭夫 (菅 東京)

十三期 主将

大の酒好き！？好まノ！

夕飯時にやる台所へよく顔を出し

「今日は、なにかな」と、なべの内をのぞきま。

秋本エんのうちの20円の おもちやに熱中

すること多々あり！

「ほッ！なんと、もう大学生もおしよ、

でも、あせんじゃう。」

「いーいーの、若んたから」

・三年生・コーナー

瀬々本哲也 (斎・広島)

十三期 主将

クラブの中では、静かな存在
しかし、するどい一面をもつ人
いまは美声は、おとろえず、

「関はヤクシロー」

関

百郎 (斎・埼玉)

十三期 副将

合宿所に入ると、布団の山はよ
ろかり、ボケ々。くすくす
こぼと、じゃれ合いがお好ま

トイレ取り合戦で、ソツも首領、

「要するにその二はお兄さん

女、女がいはいよ」と

岡野

雄一郎 (斎・宮崎)

学連

わレ、わレ、とにかく食欲

食事の時ほど、こもに手やか、外で酒を

飲むと、今はいれは四〇〇円ですわのし

と、キャバレーの心配をよくする。

キャバレーの神様、なんでも即!

決定派「おっ、まつい、まあい、や

「スー・スー、うん、うま、うま」

毎日、毎日、加山雄三、はっきり

森

幸一(菅 静岡)

合宿所、マナーシャ

ヨットの土、作復の電車の中とこで

もかまひず、Vサインの連発

得意の料理は、「マーボースープ」

「おれをさます」の森さん

「おれはしらぬけ。めんどうエツッけ」

渡辺 幸徳(清 山梨)

ほんと、最少乗艇時間で最多

沈没経験者 毎週 毎週 五〇〇名乗

のように沈没は沈没、合宿中に救

急車で入院したのもこの人(セゾの)

ビールを飲んでトイレへどうぞ。

「このゴム長、べん利べん利」

「リッパ」

・ニ年生・コーナー

清水 千佐子(菅 長野)

会計

「ソレを軽一点とやってしまった青

水、小エツッ体の内にひめた」

「ソレカ持ち」

酒をたぐエツッのおと、先輩に「くつ下を

股がせて、枕、枕」と注文をいったこと

あり、荒崎では、ちよっとしら「あお三」

・一年生・コーナー

鳥倉 (兼、富山)

とにかく酒ぐせの悪さは、夫下一品
某山の合宿所をホロホロにしたらん
アルマールが入った瞬間は、マージ
ンか、ぐちを二ぼしてやる。
マージャンが強く、先輩にうらまひ
いるとか? 「オッ、しゃべりのう
「あほかッ」

田久保篤 (常、東京)

ツツに東経、ヨット部に日本の
アウンツドワン入部、彼はど
をひとつも抜群のニ枚具、

と書きたり所ですが、へマ男、

どじ男の、うわさちらほら、

ほじしらすで、公衆の前前で

平気で「バカレ」やる。

酒は、やる、マリケム、和製

パニダの異名をとる、しかし料理

をさせれば、「土井勝」まっ青!

今年度、部員も、例年におとらず

ユニークで、多彩な者が集合

して、あります。

全部、書をまねたのが、残念です。

昭和51年度. ヨット部 = ス
(号外版)

1. 19410, 20747 - スナイプ

続々、売られる。

昭和50年度 "THE KAZI" に連載されている「売れし
買えし」告知板の売出しコーナーに、20747を載せた
ところ、続々と買手があられし。現役部員はじめ、O.B.と
まじう。

その結果、20747、北里大学ヨット部にその身をひきわ
たした。今はなきスナイプのパネルをなつかしく思い
出している。19410は、東経大、現3年生の手に移
され、今後もその活躍を期待されている。

2. 念願の52年度ガス規制右格車

ついに購入!

9月、秋季イニカレ直前に、安住さんの要請その他部員
の要望により、ついに新型リヤカーを約4万円を投じて
購入! これにより、葉山右宿中の浜から右宿所間
の往復がぐんと楽になり、その結果起床から機
装までの時間が短縮された。

これで、これからのレース結果には期待できそうです?

3. 4年振りに、470ニューコンペ購入!

待ち望まれた、470ニューコンペが去る51年9月、ヤマハ発動機より運ばれ、進水式には、安住さん始め、その他OBの人たちの立ち会いの下におごそかに行われた。部員一同の表情は、大喜びそのものだった。装備が「いままで」の舟と較べると大変良くなり、使いやすくなったということです。これから、この新艇には期待がもてそうです。なお、セーラー番号はJ965と決定いたしました。

4. コック部員一同、結婚式に招待さる!

昨年、秋部員一同、43年度卒の舟山さんの結婚式に特別ゲストとして招待された。

披露宴で歌を全員にうたってくれとの五十嵐さんからの要望があり、あわてて選曲、「君といっまでせ」×校歌を歌いエールを被うした。その後はみんなほっとした表情であった。

新婦は仲々の、日本的、家庭的な美人で、舟山さんも、幸せそうな顔をかきしきれない様子でした。

荒崎 原住民は、我、ヨット部員也。
 何と呼んでいるか？ コーナー

・タオー！のおっちゃんのこと一言。
 ヨット部は、レースに出ても、いつもビリじゃ
 しょうがねえだ。おら、船外機くっつけて
 飛ばしてやるだも。

・原地名、シリーズ

瀬々本	——	毒マムシ
関	——	ゴリウ
森	——	メカネザル
岡野	——	金貨し
渡辺	——	ゴム長とつあん
清水	——	毒木のじとちやう
田久保	——	パニダくん
島倉	——	ごみひろい

この呼び名は、原地の、子供たちをはじめ、
 荒崎周辺での通称である。

合宿、了りカルト コーナー

ある夜中の出来事、恐怖男シリーズ

私はその夜、前日の練習のつかれでぐっすりとお休み二人でいた。そう、それはもう午後の時を、すずこ頃だっろうか。突然、祝いで、雨粒のような物音がして気がついたのだ。ついに、このオホホ合宿所の夜がこめれたかと思いきや起きると、

そこには、見たこともない大男が「また」を聞いてあられまはい姿で、立っているではないか。

そして、その恐怖しさを乗り越えて、その真相をつきとめたときそのあまりにも、はしたない光景が私の目にとびこんできたのです。

泥酔した男が、その一物をつまみ、「へらへら」と笑いながら、あたり一面に、ゼール状の液体をまきちらしているのだった。そして、その水流の下に、一年生のすやすやとした眠りについた鏡があるではないか。そして、私が、あはれて震気をつけると、その男は、「ニまっちったなへ」といい、自分の布団に「おにごともおごったのか」のように、もぐり込んでしまっている。その後、おごったかどうなったかよく覚えていません……)

神奈川県警調べによる被害状況

水につかった布団	……	2組
枕	……	2つ
シャツ	……	1枚
カバン	……	1

つかえなくつった英語の辞引 …… 1冊

逃げおくれ、水につかった人 …… 1人

* 関係者の社会的地位を守るため、名前等はすべておぼろげです。

OB 名簿

氏名	住所 勤務先	TEL	備考
大竹勝	^{〒145} 大田区田園調布1-48-8 (〒1-6327) 東京経済大学(0423-21-1941)		部長
柴関八郎	^{〒194} 町田市		顧問
羽草立郎	^{〒222} 横浜市		41年度卒
角山広志	^{〒114} 北区		総監督 43年度卒
五十嵐誠	^{〒132} 江戸川区		監督 48年度卒
杉田清二	^{〒192-03} 八王子市		50年度卒
橋本登	^{〒125} 葛飾		41年度卒
日笠成城	^{〒102} 千代田区		//
鈴木正章	^{〒192} 八王子市 (旧姓 本間)		//
間利利恒義	^{〒350-02} 埼玉県入間郡		//
吉田義夫	^{〒281} 千葉市		//

高田和男 ^{〒330} 大宮市	42年度卒
原田佳臨 ^{〒124} 葛飾区	43年度卒
古川浩一 ^{〒631} 奈良市	〃
本山雄 ^{〒560} 豊中市	44年度卒
栗木清 ^{〒186} 国立市	〃
高倉義明 ^{〒503} 岐阜県	〃
豊田宏 ^{〒7317} 呉市	〃 (死去)
守屋新一 ^{〒662} 西宮市	〃
天川美里 ^{〒460} 甲府市	45年度卒
天野広道 ^{〒980} 宮城県	〃
市川勝興 ^{〒980} 仙台市	〃
上原壮六 ^{〒370} 高崎市	〃

鈴木 充	〒4774 愛知県大府市	45年度卒
柳下 昌司	〒210 川崎市川	45年度卒
杉原 克典	〒164	46年度卒
工藤 純一		47年度卒
小嶋 孝行	〒283 船橋市	47年度卒
中野 隆昭	〒197 和川市	〃
川島 佳峰	〒650 望蘭市	48年度卒
富田 秀隆	〒567 大阪府茨木市	48年度卒
永山 俊郎	〒464 名古屋市	48年度卒
長谷川 康二	〒154 埴田谷区	48年度卒
宮崎 幸雄		48年度卒
吉田 三良	〒126 葛飾区	〃

阿部謙一	〒018-04 秋田県由利郡	49年度卒
神川一正	〒733 広島市	//
木村順一	〒 市川市	//
木村由利子 (旧姓黒川)	市川市	//
木村雅章	〒997 山形県	//
小日向高志	〒166 杉並区	✓
広田 順	〒730 広島市	//
加藤慶太		50年度卒
土総雄二	〒701 高知県	//
田畑博幸	〒860 熊本市	//
田中辰郎	〒169 杉並区	//
山崎 研一	〒579 東大阪市	//
山崎淳一	〒132 江戸川区	//

飯島洋子 ^{〒135} 江東区

50年度卒

深谷敦子 ^{〒309} 茨城県西茨城郡

〃

横山昌子 ^{〒438} 静岡県磐田市

〃

青木良和 ^{〒251} 藤沢市

51年度卒

北村典聖 ^{〒613} 松原市

〃

佐塚真吾 ^{〒420} 静岡

〃

宮田冨 鹿嶋市

〃

吉田昭夫 ^{〒191} 白野市

関 司郎 ^{〒354} 新浜市

岡野雄一郎 ^{〒169} 杉並区

瀬本哲哉 ^{〒183} 府中市

森 幸一 ^{〒185} 国分寺市

渡辺幸徳 武蔵野市

清水千佐子 ^{〒148} 大田区

田久保篤 ^{〒186} 国立市

島倉徹 国分寺市

合宿所 ^(〒238-03) 橋本区喜多町荒崎 5261
取本方 (468-51-2837)

守屋 唯 [〒] 神奈川県三浦郡葉山町堀之内
1137 (0468-25-5014)

安住慎一 ^{〒249} 逗子市

春よ：！！早くこい。

編集後記

今年も、無事、「風見」が完成しました。
二年中心に、一年生は、もちろん、三年生にも、協力して
いただきました、部員一同、一弾とばかり編集に取り組みま
した。この時期は、公私共に、何かと、いそがしい時
期であり、一年の総決算でもあります。
我、ヨット部も、この「風見」をもって、昭和51年度
を終了したいと思っております。そして、新しい年に向かい
一弾と頑張る気持ちをこめ、復張りいたします。
思います。

昭和五十一年度「風見」

編集委員一同

ト・E・C

ヨット部